

【野菜部門 令和8年度 参考となる研究成果】

事項名	ねぎ春まき栽培のオオムギ間作によるネギアザミウマ密度抑制効果																																																																																																																	
ねらい	「みどりの食料システム戦略」に掲げられた化学農薬使用量低減を目指し、露地野菜では土着天敵の活用が求められている。そこで、ねぎ春まき栽培で畝間にオオムギを間作したところ、ネギアザミウマの寄生密度が大きく低下することがわかったので参考に供する。																																																																																																																	
内容	<p>1 ねぎ春まき栽培のオオムギ・ソバ間作の基本体系</p> <table border="1" data-bbox="327 495 1460 719"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">5月</th> <th colspan="2">6月</th> <th colspan="3">7月</th> <th colspan="3">8月</th> <th colspan="3">9月</th> <th colspan="3">10月</th> <th colspan="2">11月</th> </tr> <tr> <th>下</th> <th>上</th> <th>中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ねぎ春まき栽培目安</td> <td colspan="2">定植</td> <td colspan="2">土戻し</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3">培土期間</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="2">収穫</td> </tr> <tr> <td>オオムギ・ソバ管理</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">播種(土戻し後) オオムギ5kg/10a ソバ0.25kg/10a</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3">オオムギ刈込み ソバ抜取り</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>ネギアザミウマ発生期と密度抑制期間</td> <td colspan="2">初発期</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3">急増期</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3">発生終息期</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="3">苗灌注処理薬剤によるネギアザミウマ密度抑制期間</td> <td colspan="3">間作によるネギアザミウマ密度抑制期間</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)オオムギは「てまいらず」を推奨。</p> <p>2 オオムギ間作によるネギアザミウマ密度抑制効果</p> <p>(1) オオムギとソバを混ぜて、又はオオムギのみをねぎの畝間に播種し間作すると、ネギアザミウマの寄生密度を抑制できる(図1)。</p> <p>(2) オオムギとソバを混播した間作では、オオムギのみの間作よりもネギアザミウマの寄生数が抑えられる(図1)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="496 958 837 1189">  <p>オオムギとソバを混播した間作 (R7年8月18日撮影)</p> </div> <div data-bbox="1050 958 1391 1189">  <p>ネギアザミウマ成虫及び幼虫</p> </div> </div> <p>3 オオムギ間作によるねぎ収量・品質への影響</p> <p>培土を9月から行うため培土回数は減るが、ねぎ品種「ホワイトソード」、「ホワイトスター」及び「夏扇パワー」において、収量・品質(調製後の販売収量、軟白長30cm以上の割合、規格別割合)は間作しない場合と比べほぼ同程度である(図2)。</p>				5月		6月		7月			8月			9月			10月			11月		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	ねぎ春まき栽培目安	定植		土戻し								培土期間						収穫		オオムギ・ソバ管理			播種(土戻し後) オオムギ5kg/10a ソバ0.25kg/10a					オオムギ刈込み ソバ抜取り											ネギアザミウマ発生期と密度抑制期間	初発期					急増期						発生終息期							苗灌注処理薬剤によるネギアザミウマ密度抑制期間			間作によるネギアザミウマ密度抑制期間													
	5月		6月		7月			8月			9月			10月			11月																																																																																																	
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中																																																																																																
ねぎ春まき栽培目安	定植		土戻し								培土期間						収穫																																																																																																	
オオムギ・ソバ管理			播種(土戻し後) オオムギ5kg/10a ソバ0.25kg/10a					オオムギ刈込み ソバ抜取り																																																																																																										
ネギアザミウマ発生期と密度抑制期間	初発期					急増期						発生終息期																																																																																																						
	苗灌注処理薬剤によるネギアザミウマ密度抑制期間			間作によるネギアザミウマ密度抑制期間																																																																																																														
期待される効果	ねぎ春まき栽培において、土着天敵を活用することで化学農薬使用量を低減した栽培が可能となる。																																																																																																																	
利用上の注意事項	<p>1 間作を行うと除草管理が難しくなるので、雑草の少ない圃場で行うか、除草剤を適切に利用する。</p> <p>2 培土の開始時期が1か月遅いため、軟白の品質に影響する可能性がある。</p> <p>3 間作によるネギアザミウマ密度抑制にはヒラタアブ類、シマアザミウマ類、捕食性ダニ類等が関わっているものと考えられるが、主要種については不明である。</p> <p>4 他の病害虫が発生した場合はできるだけ天敵に影響の少ない農薬(各種殺菌剤、BT剤、土壌処理剤等)で適宜防除する。また、ネギアザミウマの発生を抑えられない場合は、8月中旬～9月上旬に効果の高い薬剤を散布する。</p>																																																																																																																	
問合せ先(電話番号)	農林総合研究所 病害虫管理部 (0172-52-4314)	対象地域 及び経営体	県内全域のねぎ 作付経営体																																																																																																															
発表文献等	令和6～7年度 農林総合研究所試験成績概要集																																																																																																																	

【根拠となった主要な試験結果】

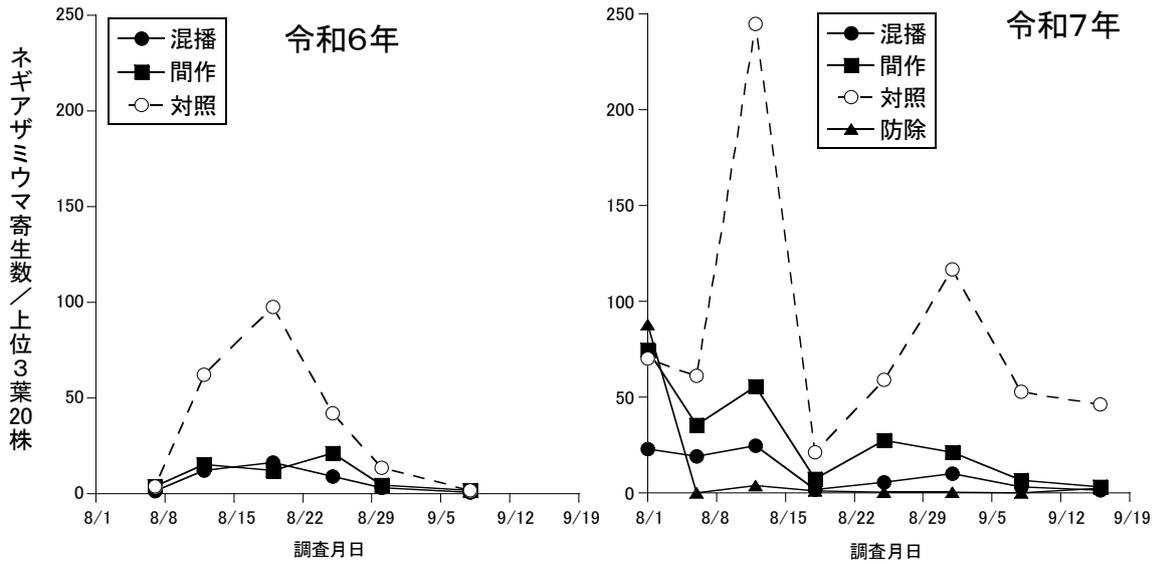


図1 ねぎ葉上のネギアザミウマ発生推移(令和6～7年 青森農総研)

- (注) 1 品種:「ホワイトソード」、定植: R6年5月28日、R7年5月30日、露地栽培。  
 2 混播区: オオムギ「てまいらず」5kg/10aとソバ「春のいぶき」0.25kg/10aを畝間に播種し間作、間作区: オオムギ「てまいらず」5kg/10aのみ播種し間作、対照区: 間作なし、防除区(2025年のみ): 間作なしで殺虫剤を8月に2回散布、ソバはオオムギを刈る前に抜き取り、オオムギはR6年9月7日、R7年8月19日に刈り取り。培土: 混播、間作区は2回、対照、防除区は3回実施、害虫防除: 全区で定植直前アルパリン顆粒水溶液を苗処理、防除区以外は殺虫剤散布なし。  
 3 ネギアザミウマ寄生数は成虫+幼虫数の3反復平均値。

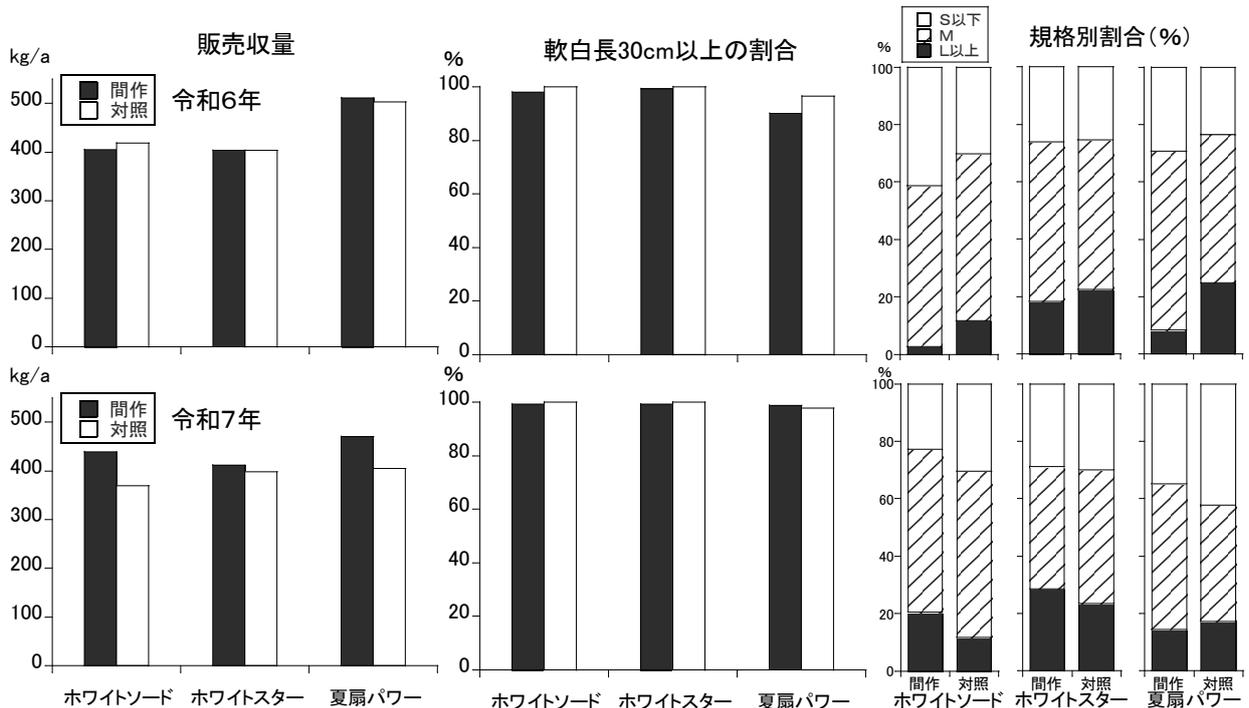


図2 ねぎ3品種における間作での収量・品質(令和6～7年 青森農総研)

- (注) 1 定植: R6年5月28日、R7年5月30日、露地栽培、収穫R6年11月11日、R7年11月6日。  
 2 耕種概要: 畝幅150cm×株間5.3cm、元肥CDUたまご化成S555 N5kg/10a+エコロング413M100 N15kg/10a、追肥NK化成2号 N3kg/10a×2回、1区面積9.0m<sup>2</sup> (1.5m×6.0m)、3連制。  
 3 間作区: オオムギ「てまいらず」5kg/10aを6月中旬に畝間に播種、対照区: 間作なし、オオムギはR6年9月6日、R7年8月26日に刈込み、培土: 間作区2回、対照区3回実施。  
 4 販売収量: 上位3葉を残し60cmに切った平均調製重にアール当たりの本数を掛けた重量、規格: 株元から10cm高の葉鞘径がL以上で2.1cm以上、Mで2.0～1.6cm、S以下で1.5cm以下の株。